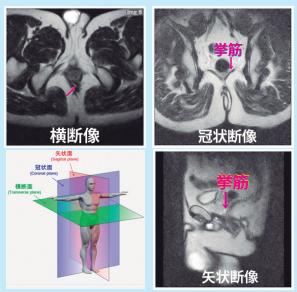


週刊新潮『注目の名医 第73回 スペシャルインタビュー』で、当院の 柴田 直哉 院長先生が紹介されました。

4月19日号（2018年4月12日発売）



柴田 直哉（しばた・なおや）
1996 年大分大学医学部卒業。宮崎大学附属病院第一外科、鹿児島市医師会病院麻酔科、県立宮崎病院外科、都城市市郡医師会病院外科、宮崎大学第一外科、高野病院、竹迫外科内科医院を経て、2009 年 3 月いきめ大腸肛門外科内科開院。■日本大腸肛門病学会肛門外科専門医・指導医、日本外科学会外科専門医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医。



MRIによる横断面・冠状断面・矢状断面の画像で深部の詳細が確認可能。

手術で深部痔ろうの全部が全部治す。痔の歪みが関係し滑脱し易い状態になっているのではと考え、排便姿勢による圧の向きの変化の違いを研究（右図）。排便姿勢を重視した治療



医療法人 清涼会
いきめ大腸肛門外科内科
<http://www.seiryu-cl.or.jp/kikemonon/>
診療◆午前 8:30～12:30（受付 11:30、土曜 12:00 まで）午後 15:30～17:30（受付は 17:00 まで）休診日◆木・土の午後・日曜祝日 所在地◆宮崎市大字浮田 3099 番地 1 アクセス◆宮崎駅から 6.5km（車で 16 分）。国道 10 号線都城方面に約 5.5km、浮田東で県道 9 号線に入る。北（跡江方面）へ直進約 1km。
電話◆0985-48-2500
いきめ大腸肛門外科内科 検索

注目の名医 73
●スペシャルインタビュー
Special Interview

**「前屈みでの排便は痔のリスクが高くなります」
排便姿勢重視。手術は骨盤MRIで必ず病変を確認してから**

宮崎市●県下では数少ない肛門外科専門医として独自の効果的治療法を考案・提供する

痔の治療において、排便時の姿勢と痔の出来る部位の相関関係に早くから着目し、痔になりにくい排便姿勢の指導やMRIを活用した痔ろうの治療で大きな評判を呼んでいるのが、宮崎市は生目の杜運動公園の近くにある『医療法人清涼会 いきめ大腸肛門外科内科』である。宮崎では数少ない肛門外科の専門医として、日々の業務のかたわら、数々のデータを収集・分析・研究し、効果的な治療法などを考案。学会で発表を重ねるなど、精力的に活動続ける院長の柴田直哉医師に話を聞いた。

痔ろう手術はMRIが必須
大腸肛門病に特化した専門医院として、内視鏡検査システム、CT、MRI、肛門内圧検査機器、

肛門エコー検査機器などを完備し深部の小さな病巣も見逃さない万全の治療を目指す。
「肛門科では、触診と超音波検査で3D画像を診断に用いていると

ころは少ないようですが、外科ではどこに病変があるかをしっかりと確認して手術に当たることが大事です。肛門外科医の醍醐味は深部痔ろうとされており、診断も確実な病変部位の同定のため、当院は術前検査として必ず骨盤MRIも行っています（左写真）。がんでは病変の深達度、リンパ節転移、遠隔転移の有無をほぼ確定して手術します。痔ろうは良性疾患ですが、病変部位の確実な同定が従来の検査のみでは困難な病態です。手術で深部痔ろうの全部が全部治

るとは言えませんが、MRIで確認したうえで深いところを切除するので治療効果は大きく、再発は極力抑えられます」と柴田医師。

排便姿勢重視の診療が効果的
さらに柴田医師の診察で特徴的なのが排便姿勢の指導。姿勢に着目したのは、病的な痔核の原因に肛門クッション滑脱説があるが、なぜ人によって出来る場所や大きさが変わるのかとの疑問から。痔核の出現は排便時のいきみ時の圧の歪みが関係し滑脱し易い状態になっているのではと考え、排便姿勢による圧の向きの変化の違いを研究（右図）。排便姿勢を重視した治療

